8/16 東福

GDP年率6.0%増

4～6月期 物価高で個人消費は減

内閣府が十五日発表した二〇二三年四～六月期の国内総生産（GDP、季節調整済み）速報値は、物価変動を除く実質で前期比1・5%増、年率換算は6・0%増だった。市場予想（年率プラス3%程度）を大きく上回り、三・四半期連続のプラス成長となった。半導体の供給制約の緩和で自動車などの輸出が伸びた。ただ輸入の減少が統計上プラスに寄与した面も大きく、物価高の影響で個人消費も低調だった。

実質GDPの伸び率は、二〇年十～十二月期（年率7・9%増）以来の大きさだった。景気実感に近いとされる名目GDPは前期比2・9%増で、年率換算は12・0%増となった。物価高を反映して二〇年七～九月期（年率22・8%増）以来の高い伸びとなり、金額も過去最高の五百九十兆七千億円に達した。

四～六月期の実質を項目別に見ると、個人消費は前期比0・5%減で三・四半期ぶりのマイナス。外食や宿泊は伸びたが、食料品や白物家電が相次ぐ値上がりの影響などで落ち込んだのが響いた。設備投資は0・0%増にとどまった。住宅投資は1・9%増、公共投資は1・2%増だった。

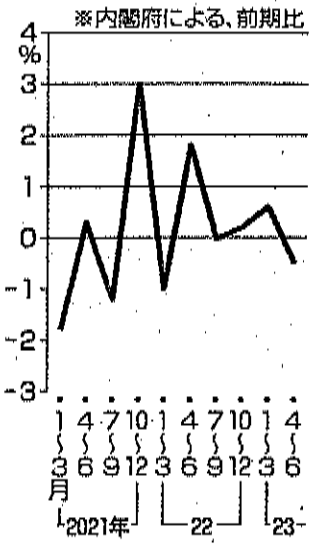
輸出は3・2%増だった。自動車の伸びに加え、統計上は輸出に区分されるインバウンド（訪日客）消費の拡大が寄与した。一方、輸入は4・3%減だった。原油や医薬品などが減った。輸入は国内ではなく海外で生み出されたモノやサービスを買うことなので、増えればGDPのマイナス要因となるが、逆に減ればプラスに作用する。

こうした結果、GDP全

GDP速報値の概要

	2023年4～6月期
実質GDP	1.5 (6.0)
個人消費	▲0.5
住宅投資	1.9
設備投資	0.0
公共投資	1.2
内需寄与度	▲0.3
輸出	3.2
輸入	▲4.3
外需寄与度	1.8
名目GDP	2.9 (12.0)

※季節調整済み。前期比増減率%、寄与度はポイント。（ ）内は年率換算、▲はマイナス

個人消費の増減率の推移

※内閣府による、前期比